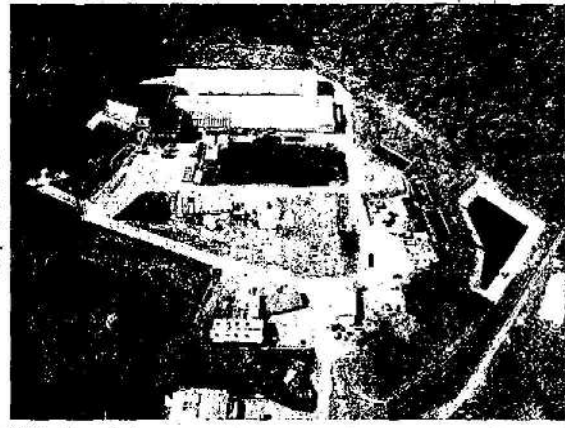


グッドライフアワードを受賞

広域連携で地域資源を有効利用

アサギリ

再生利用事業(肥料製造事業)を展開するアサギリ(静岡県富士宮市、篠威頼社長、0544・52・0212)は昨年、環境省の「第12回グッドライフアワード」で実行委員会特別賞の「SDGスリネス賞」を受賞した。地元の資源だけでなく隣接地域の資源を活用した「余剰牛ふんやバイオ炭を活用した広域連携による持続可能な循環型システム



本社工場全景



原料保管施設(奥は発酵槽)

の構築」の取り組みが評価された。同社では、国内有数の酪農地である富士宮市で発生する家畜糞尿(年間約8万ト)の約33%を再資源化し、堆肥として農家に出荷する循環型システムを構築「地球環境全体への貢



アサギリMIX PELLET

食品系・バイオマス

献」を取り組みとして続けてきた。製造した堆肥製品については、顧客のニーズに応じて形状・栄養分の異なる「アサギリMIX」「アサギリMIPELLET」(栄養たっぷり牛ふん堆肥「朝霧高原の牛ふん堆肥」等、複数種類を展開している。グッドライフアワードで受賞に至った取り組みについては、隣接地域の南部町バイオマスエナジー(山梨県南部町)がバイオマス資源(竹、果樹剪定枝、もみ殻)を発電事業で活用した後に残ったバイオマス炭について、アサギリが堆肥製造で活用することで、「地域の広域連携」地域資源の地産地消「食品ロスの解消」「バイオ炭の農地利用によりJクレジット売却につながるといった効果がある。昨年3月21日には「静岡県SDGスリネスアワード2023」で優秀賞も受賞している。アサギリでは立命館大学カーボンマイナスプロジェクトに参画しており、今後もバイオ炭を活用した環境にやさしい堆肥製造に挑戦していく。篠社長は「当社の堆肥は農家が活用する状況からバックキャストで考えている。今回の取り組みを通じて、広域連携によってそれぞれの地域の課題を解決し資源として生まれ変わらせることができ、結果として堆肥の付加価値も向上する」と話している。